

IV. 総括 2022

I. 生徒・保護者・教員の自己評価から

今年度は、生徒の評価に関しては、全体的に例年（過去3年比較）より低い評価が多かった。①「本校の学習環境・教育設備等は十分に整っていると思いますか」②「本校の国際教育は充実していますか」③「本校の学校生活に満足していますか」④「心の問題に関する対応やカウンセリングは充実していますか」⑤「本校は安全で清潔な学習環境であると思いますか」の5つの項目で、中学生、高校生共に満足度が下がっている。⑥「本校の先生方は熱心に指導していると思いますか」の項目では、高校生の満足度が96.6%と非常に高かったのに対し、中学生では92.7%と例年よりやや低い数字となった。本校は、私立学校として、“選んでもらえる学校”を目指し日々教育活動を行っている。その中で、本校の特色の一つである、教職員のきめ細やかな指導は最も大切にしている根幹であり、中学生で満足度が下がったことをしっかり受け止め、分析し、改善しなければならない。また、③の学校生活の満足度に関しても同様なことが言える。ここ近年、ICT環境の設備が進められ、①「本校の学習環境・教育設備等は十分に整っていると思いますか」の項目では、満足度90%以上の評価を得ていたが、今年度は86.8%にとどまった。特に中学生の評価が低く85.2%であった。今年度も、新たにiPadとchromebookを新たに購入し、生徒一人1台の台数はないものの、各授業で使えるだけの台数をそろえた。そのような取り組みが上手く評価されていないのか、やはり、まだまだ台数的に不足しているのかしっかり調査し改善していきたい。逆に例年に比べ満足度が上がったのが⑦「本校の宿題は学力向上に役立っていると思いますか」⑧「あなたは、自分自身の進路実現に向かって努力していると思いますか」⑨「あなたは、自分の行動に責任を持ち、自ら規律ある学校生活が送れていると思いますか」の3つの項目であった。質問の⑨では、中高生共に満足度が上がっており、特に高校生での評価が高い。全体的に見て、今年度は高校生の満足度が高く、充実した学校生活が送れていることが伺える。ただ、全体的に満足度の低い項目もまだまだあるので、一歩ずつ改善に向けての取り組みが必要である。

保護者の評価からは、昨年度に比べて満足度が上がっている項目が多く、本校の教育活動が保護者に理解されつつあることが伺える。特に大きく満足度を上げたのが④「お子さんは学習の必要性を認識し、自ら進んで学習している」⑦「お子さんは、家庭学習を十分にしている」⑩「お子さんは、進路実現に向かった努力している」⑭「心の問題に関する対応やカウンセリングは充実していると思いますか」⑮「部活動が活発に行われていると思いますか」の5つの項目である。宿題と進路実現の項目は生徒の評価とも一致しており、引き続き、良い指導を継続していきたい。また、例年評価が低い部活動の活性化の項目で、中学生、高校生の保護者共に評価が上がっていることは喜ばしい結果となった。ただ、全体の満足度が63.8%とまだまだ低いので、部活動だけでなく、探究学習や自習など、生徒一人ひとりが放課後活動を充実させるためのカリキュラムの改善が必要である。学校評価の保護者からの要望でも、「一斉授業による画一的な指導ではなく、個々に応じた学びの場、学習支援を整備して欲しい」とのご意見をいただいた。これは、新学習指導要領でも掲げられた目標であり、これまでの学校の体制を大きく見直す時期にきていると考える。それらを踏まえ、次年度、新たな取り組み挑戦することが既に決定しており、学校として、変化を恐れず、時代の流れに柔軟に対応できる組織作りを目指していきたい。

教員の自己評価は、生徒・保護者の評価と日々の教育活動を比較して評価をつける。今年度、「全教員による中核目標の自己評価に関して」14項目すべての項目で「B」達成できたとなっているが、これは、教職員で最も多かった評価を採用するので、毎年、大きな変化はない。ただ、細かく分析すると③「学習の必要性を認識し自ら進んで学習できる生徒」⑥「国際教育を充実させるためのより具体的な取り組み」⑩「朝の遅刻や授業での遅刻をしない」⑪「生徒各自が自主的に目標を持ち、学習に学ぶ姿勢を培う」の項目では20%の教員が「C」又は

「D」の評価をつけた。特に、朝の遅刻の問題は深刻であり、本校は、他校と比べても遅刻する生徒の割合は高いと感じる。遅刻の多い生徒には、保護者への電話連絡や面談を実施するなど、改善に向けての取り組みは行っているものの、大きな改善が見られない現状である。逆に、④「教員研修」⑦「生徒募集」の項目では「A」評価をつける教員も多く、日々の取り組みに一定の手ごたえを感じている。特に、教員研修では、状況を鑑み、数年前から企画していた研究授業から、小集団によるコミュニケーションの機会を増やすための個別研究にしたことにより、先生方も主体的に参加できていると感じる。

II. 学校関係者による評価から

今年度もお忙しい中、本校の運営に携わっていただき、忌憚ないご意見いただきましたことに感謝申しあげる。今年度は昨年度に比べて「B」の評価が増えているが、集計の際に、「A」と「B」の評価が丁度半数に割れた場合は「B」をつけたことによるもので、これは、私たち自身、慢心することなく日々の教育活動を改善し、よりよくするためのチャレンジ精神を持つためである。そのことは、学校関係者評価委委員の皆様からのご意見からも伺えることで、私立学校として、日々、変化する社会に柔軟に対応する精神がないと発展できないことを示唆していただいたものだと考える。「国際教育が充実している」の項目では、昨年度に引き続き「B」評価となっており、コロナ禍、昨今の物価高、円安の傾向を受け、海外への留学が厳しくなるなか、学校独自の取り組みを考えることが必要である。今年度の報告会では、「県内留学」という新たな視点でご助言をいただいた。基地内の学校や、民間の団体などを活用し、沖縄でも外国籍の方と交流し、生徒の育成につなげるというものである。コロナ禍で、できないことが増え、教職員の中でも、「この状況だから仕方ない」や「やりたいけどできないから諦める」というような、負の思考が染みついている気がする。「仕方ない」「諦める」ではなく、「何ができるか」を考え、今だからこそチャレンジする精神を全教員が持ち、前向きな力に変えていくことが一番必要だと感じた。そのことを、教職員全員に浸透させ、次年度から始まる新たな取り組みも含めより良い学校作りに邁進したいと思う。

III. 今後の取り組み

昨年度の学校評価から、組織改革の必要性を改めて認識し、昨年度末から「学校マネジメント」に取り組んでいる。現在、卒業時に身につけさせたい能力（GP）の策定とカリキュラムポリシー（CP）の策定が終わり、カリキュラムマネジメントのプランニングを行っている。カリキュラムマネジメントでは、「教育課程」のみならず、「進路指導」「学力向上」「生徒会活動」の4つの分野に分け、カリキュラムポリシーに掲げる「7つの力」の育成を目指し、全教員がこの4つのグループのいずれかに属し、いろいろなアイデアを出し合い、新たな取り組みを構築している。その中から、次年度は、生徒の「自ら学ぶ姿勢の育成」や「個々の能力を伸ばすための環境作り」の一環として、45分授業に切り替え、放課後の活動時間を長くすることで、探究学習やPBL活動での自己探求や補習、また、部活動など自己研鑽の時間を確保する。また、授業に関しても落ち着きをもって取り組んでもらうために、定期試験を年3回とし、中学生では単元テスト、高校生では確認テストや論述試験の実施を行う。単元テストでは、希望者全員に追試を行う（良い方を評価に入れる）ことで、生徒自ら目標を掲げ、主体的な学びにしていく。

私立学校として今後も発展するためには「選ばれる学校作り」を行うことが重要で、生徒の満足度100%を目指し今後も改善努力を続ける必要がある。そのためには、まず、教職員が充実した指導をできるように学園で支え、教員間で良いコミュニケーションをとりながら協働できる雰囲気作りが大切である。